報　告（5）

令和3年 11 月 25 日
必由館高等学校

必由館高等学校改革に係る学校提案について

1　7 月定例教育委員会会議（7 月 29 日）報告後の経過

令和3年 7 月 29 日　教育委員会会議にて教職員案及び生徒意見報告
〃　9 月上旬　校長から生徒、同窓会へ今後の対応について周知
〃　9 月 21 日　教育委員と生徒代表、教職員、同窓会代表との意見交換（オンライン）
〃　10 月　4 日　教職員案に対する生徒アンケート実施（生徒会による実施）
〃　10 月　5 日　保護者への意見聴取
〃　10 月 15 日　校内検討会議（生徒代表、教職員、同窓会代表）
〃　10 月 20 日　校長と生徒代表との意見交換
〃　10 月 26 日　校内検討会議（学校案（素案）とりまとめ）
生徒、同窓会による学校案（素案）確認
〃　11 月 12 日　校長と生徒代表との協議
〃　11 月 19 日　学校案決定（校長より全校生徒、保護者及び同窓会への周知）

2　生徒アンケート結果を踏まえた生徒会の意見

基本的に現在のままの必由館高校が良い。
変えるのであれば、以下のとおり希望。
①「総合探究科」ではなく、「普通科」
②「総合探究コース」ではなく、「普通探究コース」
③ 服飾デザインコースを 1 クラス単独で存続設置
④ 中学校を設置するのであれば別の場所に新設
⑤ 35 人学級ではなく、36 人学級に
⑥ 校則についても学科改編と同時に考えてほしい（生徒の主体的参画として）

3　保護者意見（概要）

【学科改編について】
・3 年間を通じて様々な経験を重ね、考える力や判断力等が身に付く学校であってほしい。
・普通科は廃止しないでほしい。
・普通科でも、進学や就職など、後々進路希望が変わった際に対応できるような学校がよい。
【中学校設置について】
・設備や部活動など、検討する要素が多すぎるので、急いで中高一貫にすべきでない。
・中高一貫はよいと思うが、特色だけの学校には興味はなくなると思う。
【その他】
・あくまで子供たちが学べる最良の学校にしてほしい。
・限られた予算の中で、必由館でなければできないような特色ある教育を目指すことで、市立高校として存続していく価値があるのではないかと思う

4　必由館高等学校提案（別紙）

5　今後の予定

12 月中旬	市議会第 4 回定例会　教育市民委員会にて報告
12 月 17 日（予定）	教育委員と生徒、教職員、同窓会代表者との意見交換
2 月～3 月	市議会第 1 回定例会　教育市民委員会にて基本計画素案報告

市立高等学校・専門学校改革基本計画案　必由館高等学校提案【概要版】

第１章　市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について→原案どおり

１．改革の趣旨

・高等学校においては最後の学科改編から約 20 年、専門学校については最後の校名変更から約 30 年が経過し、現在の社会及び市民のニーズに応じた新たな時代を見据えた教育内容の見直しが求められている。

２．計画の位置づけ

・「市立高等学校・専門学校改革基本計画」は、「熊本市第７次総合計画」（令和元年度中間見直し）及び「熊本市教育大綱（熊本市教育振興基本計画）」（令和２年度改訂）の理念を踏まえて策定するもの。

第２章　市立高等学校・専門学校の現状と課題について

１．必由館高等学校

・現状：明治 44 年（1911 年）開校、平成 13 年（2001 年）に校名変更学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施
部活動は文武両面で活躍
地元の私立大学を中心に約９割の生徒が進学
普通科普通の出願倍率については高水準で推移

・課題：学習意欲や学力に生徒間の差が見られ、主体的に学ぶ意欲や態度の育成が必要

第３章　市立高等学校・専門学校の改革方針

１　改革の基本理念

・自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へ改革する。

２　三つの特色

（１）**「市立ならでは」の特色ある学校**

①学科・設置形態	・幅広い進路選択に対応する「**普通科**」としつつ、探究的な学びを充実した教育課程を編成し、大学や企業、地方自治体との連携等、特色ある学びを実現する。 ・中高一貫教育の実施については引き続き検討
②少人数クラス編制	・高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、**36 人**学級編制を実施 ・少子化の進展等に応じて段階的に募集定員を減じることについて継続的に検討
③学校間連携	・市立高校２校の連携強化方策の検討
④市が所管する地域資源等の活用	・市役所や熊本城等、市の所管する施設・機関と連携した探究学習等 ・市の創業支援関連事業と連携した起業家教育の実施
⑤多様な生徒受け入れ	・多様な個性や才能を持つ生徒や意欲ある生徒を受け入れる選抜方法へ変更 ・個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等による個に応じた学びの実現 ・校内での支援体制強化（障がいを持つ生徒等への指導・支援の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ 等の性的マイノリティの生徒への支援など）
⑥特別活動の充実	・生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 ・既存の部活動の振興
⑦外部人材の登用	・教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用

（２）**探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校**→原案どおり

①市・企業・大学等と連携した課題解決型学習	・市役所や市の施設におけるフィールドワーク ・ベンチャー企業の経営者等を講師招聘した講話 ・大学や地域の企業との連携による課題解決学習
②SDGs を中心に据えた探究的学習	・まちづくりや環境、福祉などの諸問題について、課題解決策等の探究的学習 ・熊本地震からの復興や防災・減災をテーマとした地域課題に関する探究的学習
③個別の興味関心に応じた探究課題の設定	・生徒が希望する進路に関する探究や大学、企業等の調査 ・生徒の興味や関心に応じた「自分事」となる課題追究的な学習

（３）**生徒が主体的に学校づくりに参画する学校**→原案どおり

①生徒主体の探究的な学びの実現	・探究的な学びの授業づくりに生徒が参画する機会を設ける ・市役所や企業・地域団体・大学等との連携構築段階から生徒が参画
②学校運営への生徒の参画	・校則の策定や見直しに生徒が参画する ・生徒が職員と協議、提案する機会を設ける
③生徒の主体性を尊重する教員の専門性向上	・生徒の考える力を引き出すような授業への改善 ・生徒をファシリテートできる資質・能力の育成

第４章 各校における改革方針

１ 新たな必由館高等学校への改革

教育理念 文武両道の校風のもと、**多様な個性を尊重しながら主体的に生きる力を育成**する

課程・学科・概要

〈現行〉定員 360 名

普通科	普通 ６クラス（240 名）
	国際コース １クラス（40 名）
	芸術コース １クラス（40 名）
	服飾デザインコース １クラス（40 名）

〈改革案〉 募集定員 **324** 名 （36 名×9 クラス）

普通科※	**普通探究コース（仮称）** ７クラス（252 名） ２年次：進路希望に応じた基礎科目選択 ３年次：進路の希望や興味関心等に応じてクラス（類型）分け 【例：国際探究、人文探究、サイエンス探究、文理総合 等】
	芸術探究コース（仮称） １クラス（36 名） （音楽、美術、書道の３系）
	生活探究コース（仮称） １クラス（36 名） （衣生活を中心に、生活をデザインするコース）

※普通科：名称を普通科としつつ、大学や企業、自治体と連携した探究的な学びを充実するもの

併設中学校の新設検討について

・検討委員会答申（R2.3 月）では「**設置するかどうかも含め、小中学生をはじめとする市民のニーズを詳細に分析し、適切に判断されるようお願いする**」

目的・方法	・市民の意見・**ニーズを改めて調査**し、教育委員会の検討材料とする ・コロナ禍による影響、市の財政状況等を踏まえ、改めて設置の必要性について慎重に検討する
設置により想定される影響	・併設中学校の入学志願倍率が高い場合でも、高校段階からの入学希望者が減少する可能性 ・**施設設備**に伴う予算措置（技術室、音楽室、普通教室、多目的室等）が必要
必要な調査	・高校の教育内容の特色が明らかになった後に改めて設置の必要性等を調査 ・施設設備のコスト試算を提示した上で市民のニーズを調査

募集人数や学科・コースの定期的な見直しについて

・変化の激しい社会にあって、市民のニーズや高校卒業後の進路状況等を踏まえ、今回の改編の効果を定期的に検証し、**募集人数や学科・コースの在り方についても必要に応じて見直す仕組みを構築**する。

第５章　スケジュール（予定・最短）

内容	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７～
学科・コース検討	概要・詳細検討			**開校予定（最短）**	
教育課程検討		開設科目等検討	シラバス作成・公表		
選　抜　検　討	選抜方法等調査研究	選抜問題作検討	選抜問題作成 選抜実施		
生　徒　募　集		中学校等への説明 説明会実施 →			
中高一貫教育検討		コスト試算等	ニーズ調査・分析 検討 →		（設置する場合は施設整備）

市立高等学校・専門学校改革基本計画

必由館高等学校提案

令和３年（2021 年）11 月

熊本市立必由館高等学校

目次

第１章　市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について 3
第２章　市立高等学校・専門学校の現状と課題について 3
１．必由館高等学校 3
（１）現状 3
（２）出願倍率 3
（３）課題 4
第３章　市立高等学校・専門学校の改革方針 5
１．改革の基本理念 5
２．三つの特色 5
（１）学校の特色Ⅰ 「市立ならでは」の特色ある学校 5
①学科・設置形態 6
②少人数クラス編制 6
③学校間連携 6
④市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用 6
⑤多様な生徒の受け入れ 6
⑥特別活動等の充実 6
⑦社会で活躍する外部人材の登用 7
（２）学校の特色Ⅱ 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校 7
（３）学校の特色Ⅲ 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校 7
第４章　各校における改革方針 8
（１）教育理念 8
（２）設置形態・規模 8
（３）学科・コース 8
（４）学科・コースの詳細 10
①普通科・普通探究コース（仮称） 10
②普通科・芸術探究コース（仮称） 10
③普通科・生活探究コース（仮称） 10
（５）併設中学校の新設検討について 10
（６）募集定員や学科・コースの定期的な見直しについて 11
第５章　スケジュール（予定・最短） 12

第１章　市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について

（略）

第２章　市立高等学校・専門学校の現状と課題について

１．必由館高等学校

（１）現状

必由館高校は、明治44年（1911年）に熊本市立実科高等女学校として開校し、昭和24年（1949年）の共学化、昭和34年（1959年）の商業科独立、３回の校名変更を経て、現在に至っている。平成13年（2001年）に学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施している。部活動では、野球部、剣道部、女子バレーボール部などの運動部のほか、和太鼓部、美術部、書道部、音楽部、服飾デザイン部といった文化部など、文武両面で活躍している。卒業生の進路については、地元の私立大学を中心に約９割の生徒が進学し、そのうち国公立大学へ例年30～40人程度進学している状況である。主な就職先は地元企業や公務員等である。

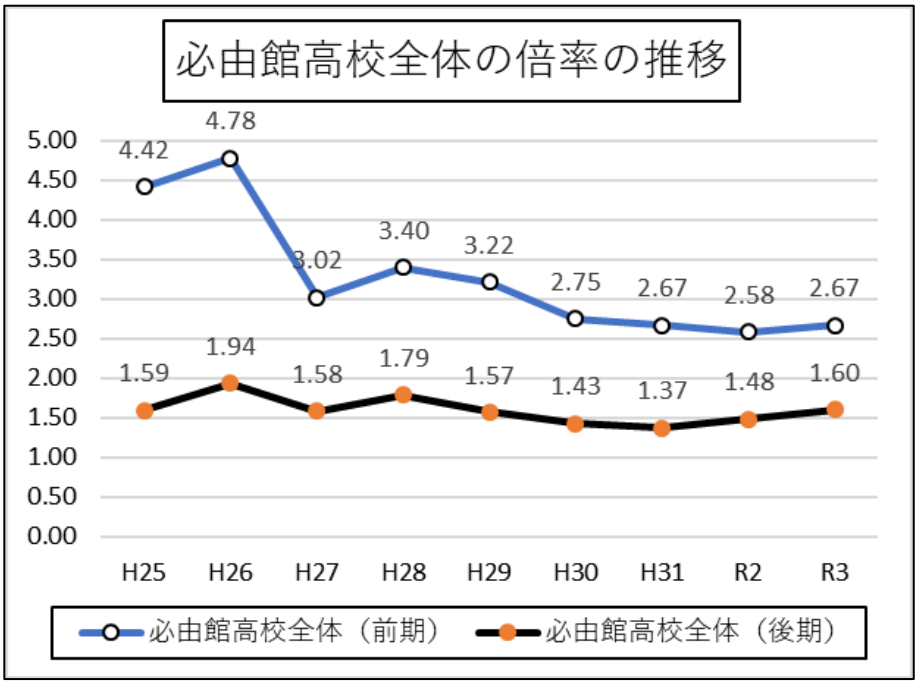
所在地	中央区坪井4丁目15番1号			
全校生徒	1,049名（男321人、女728人） R3.5.1現在			
学科	全日制・普通			
コース	普通	国際	芸術	服飾デザイン
募集定員 1学年　計360人	240	40	40	40
学級数 1学年　計9クラス	6	1	1	1
教員数	105人（校長1、教頭2、教諭等90（うち非常勤22、実習助手3）事務他12）			

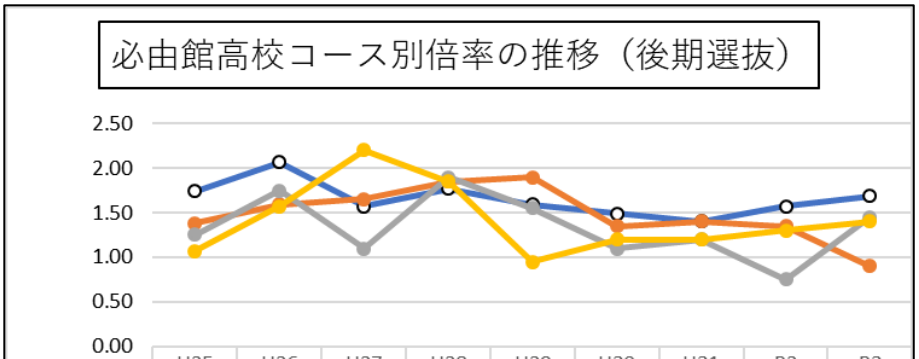
（２）出願倍率

前期（特色）選抜の出願倍率は、平成26年（2014年）の4.78倍をピークとして、その後は全体的に緩やかな低下傾向にあり、平成28年（2016年）以降は平均3倍前後で推移している。

後期（一般）選抜の出願倍率は、平成27年（2015年）の服飾デザインコース（2.20倍）をピークとして全体的にやや低下傾向にあり、平成29年（2017年）以降は、コースによっては定員割れが生じている。

普通科普通の出願倍率については、普通科の前期（特色）選抜を廃止した平成27年以降、1.40倍以上を維持している。令和３年度入試では県内公立高校普通科で２番目の倍率となる1.69倍であり、高水準で推移している。





	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
普通	1.74	2.07	1.57	1.77	1.59	1.49	1.40	1.57	1.69
国際	1.38	1.59	1.65	1.85	1.90	1.35	1.40	1.35	0.90
芸術	1.25	1.75	1.10	1.90	1.55	1.10	1.20	0.75	1.45
服飾	1.07	1.57	2.20	1.85	0.95	1.20	1.20	1.30	1.40

（３）課題

普通科については、生徒が偏差値（学力）によって高校選択をする傾向がある。国の調査においても、特色や目的意識ではなく、他律的な動機付けによって高校選択をした生徒は、高校生活での学習意欲や満足度等が低い傾向にあることが指摘されている。

本校においても学習意欲や学力の差が大きく、主体的に学ぶ意欲や態度を育成するための取組が一層必要である。今後は、20 年後・30 年後の社会像を見据え、学校内外の教育資源を最大限活用して特色・魅力ある教育を実現することが求められる。

第３章　市立高等学校・専門学校の改革方針

１．改革の基本理念

（略）（原案どおり）

２．三つの特色

改革の基本理念を具体化するため、生徒や保護者から選ばれる魅力となる特色を、図表２に整理した。これらの「学校の特色」に基づき、改革を実行する。この特色は、必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校の３校すべてに共通する方向性とする。

図表 2 学校の特色

Ⅰ「市立ならでは」の特色ある学校
Ⅱ 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校
Ⅲ 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

（１）学校の特色Ⅰ　「市立ならでは」の特色ある学校

（必由館高校関連部分のみ記載）

図表 3 「市立ならでは」の特色ある学校

「市立ならでは」の特色ある学校	**①学科・設置形態**	・幅広い進路選択に対応する「普通科」としつつ、探究的な学びを充実した教育課程を編成し、大学や企業、地方自治体との連携等、特色ある学びを実現する。 ・中高一貫した系統的な教育を実施するため、必由館高校に附属中学校を設置することについては引き続き検討
	②少人数クラス編制	・高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、36 人学級編制を実施 ・少子化の進展等に応じて段階的に募集定員を減じることについて継続的に検討
	③学校間連携	・市立高校２校の連携強化方策の検討
	④市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用	・市役所や熊本城等、市の所管する施設・機関と連携した探究学習等 ・市の創業支援関連事業と連携した起業家教育の実施
	⑤多様な生徒の受け入れ	・多様な個性や才能を持つ生徒や意欲ある生徒を受け入れるため、市独自の選抜方法へ変更 ・個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等による個に応じた学びの実現 ・校内での支援体制強化（障がいを持つ生徒等への指導・支援の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ 等の性的マイノリティの生徒への支援など）
	⑥特別活動等の充実	・生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 ・既存の部活動の振興
	⑦社会で活躍する外部人材の登用	・教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用

①学科・設置形態

必由館高校は、幅広い進路選択に対応する現行の普通科を存続しつつ探究的な学びを充実した教育課程を編成する。加えて、当該学科の中に、芸術に関するコースと服飾・生活に関するコースを設置する。

また、市立高校であることを生かし、義務教育段階から連続的な教育を行う等の特色ある教育を実施する中高一貫教育の必要性やあり方について調査、検討を行う（詳細は「第４章各校における改革方針」に記載）。

②少人数クラス編制

必由館高校について、生徒一人ひとりへのきめ細かな指導、支援を実現するとともにことで、探究的・体験的な学びの充実を図るため、１クラス 36 人以下を標準とする。

なお、将来的な少子化の進展や、法令に示された学級編制の基準の変更等、学校を取り巻く環境の変化に応じて、段階的かつ柔軟に募集定員を減じることについても、継続的に検討するものとする。

③学校間連携

ICT 機器やネットワーク環境を活用し、探究的な学びの一部を共同実施する等、高等学校間の連携方策について研究する。

④市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用

（略）（原案どおり）

⑤多様な生徒の受け入れ

市立学校の役割として、特定の分野に秀でた才能を持つ生徒や経済的な困難を抱える生徒、特別な配慮が必要な生徒など、多様な個性や才能、生活背景、生活上の困難を持つ生徒の学習や進路実現を支援する役割を果たすことが重要である。

少人数によるクラス編制も、様々な生活背景や生活上の困難を抱えた生徒に対するきめ細かな指導、支援の実現を目指す施策の一つである。

高校の入学者選抜段階においては、多様な個性をもった生徒や意欲ある生徒を積極的に受け入れられるよう、市独自の選抜方式を導入する。

加えて、個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等、オンライン教育を活用して個に応じた学びの実現を図る。

⑥特別活動等の充実

生徒会活動について、生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進する。また、学校行事の企画・運営・検証に生徒が主体的に関わるようにする。

部活動についても、活動の企画・運営・検証に生徒が主体的に関わるようにするなど、生徒の意欲やニーズ、実態に応じたあり方を検討するとともに既存の部活動の一層の振興を図る。

⑦社会で活躍する外部人材の登用

本改革を強力に推進していくため、教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用することを検討する。例えば、図表８のような人材が考えられる。

図表 8 外部人材の例

必由館高校	国際教育や芸術教育、探究について造詣が深く、改革を支援する力量のある人材 【例】民間出身の校長経験者、教育改革の実践経験者 等

（２）学校の特色Ⅱ 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校

（略）（原案どおり）

（３）学校の特色Ⅲ 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

（略）（原案どおり）

第４章　各校における改革方針

１．新たな必由館高等学校への改革

（１）教育理念

必由館高校は、学業や文化活動、スポーツなど、多様な個性を伸長し、生徒の幅広い進路希望や興味関心に応じた主体的な学びを実現する学校とする。また、「SDGS 未来都市」としての熊本市の取組に関する学習など、地域理解を深める探究学習を実施する。

これらに加え、現在の教育の特色も踏まえ、必由館高校における教育理念を「文武両道の校風のもと、多様な個性を尊重しながら主体的・探究的に学ぶ生徒を育成する」と定める。

図表 11 必由館高校の教育理念

文武両道の校風のもと、多様な個性を尊重しながら主体的に生きる力を育成する

（２）設置形態・規模

現在の特色の一つである文化活動や体育活動、生徒会活動等、幅広い活躍の場を確保すると同時に、進路希望にきめ細かく対応するため、１クラス 36 人学級とし、１学年 324 名程度（９クラス）を想定する。

（３）学科・コース

幅広い進路選択に対応する「普通科」としつつ、その中に、上級学校進学に向けた学習や興味関心に応じた学習を行う「普通探究コース（仮称）」と、芸術に関する学びを深める「芸術探究コース（仮称）」及び衣生活を中心に生活全般のデザインに関する学びを充実する「生活探究コース」を設置する。

なお、現行の「普通科・国際コース」が中心となって実施していた国際交流や海外研修については、「普通科・普通探究コース」において継続、あるいは拡充して実施することを想定している。

図表 12 必由館高校学科・コース案（※人数は１学年あたりの募集定員）

（現行）　　（変更後）

募集定員 360 名　　募集定員 315 名程度

普通科	普通 6クラス（240 名）	普通科	**普通探究コース（仮称）** ７クラス（252 名） ２年次：進路希望に応じた基礎科目選択 ３年次：進路の希望や興味関心等に応じてクラス（類型）分け 【例：国際探究、人文探究、サイエンス探究、文理総合　等】
	国際コース 1クラス（40 名）		**芸術探究コース（仮称）** １クラス（36 名） （音楽、美術、書道の３系）
	芸術コース 1クラス（40 名）		**生活探究コース（仮称）** １クラス（36 名） （衣生活を中心に、生活をデザインするコース）
	服飾デザインコース 1クラス（40 名）		

図表 13 現在の学科・コース概要との比較

（現行）

	普通科
普通	◎興味関心に応じて個性を伸ばす ◎2年次から文系／理系を選択 ●国公立大学や医療看護系の上級学校進学を目指す
国際コース	◎異文化理解能力の育成 ◎海外研修等を通した外国人とのコミュニケーション能力の育成 ●国公立大･私立大学（文系）への進学を目指す
芸術コース	◎音楽、美術、書道の3系 ◎表現及び鑑賞の専門的な学習 ●国公立･私立大学（芸術系、教育学部等）への進学を目指す
服飾デザインコース	◎専門科目や行事を通して計画性、探求力、表現力を育成 ●4年制大学（文系、教育系、服飾系、デザイン系）への進学を目指す

（変更後）

	普通科（仮称）（9 クラス　324 名）		
	普通探究コース（仮称）（7 クラス）	生活探究コース（1 クラス）	芸術探究コース（1 クラス）
学科の概要	◎多様な進路希望や興味関心に応じた学びを実現 ◎２年次から進路希望に応じて基礎科目を選択 ◎３年次には進路希望や興味関心に応じたクラス編制	◎衣生活を中心に、生活全般に関する学び	◎音楽、美術、書道の３系 による専門教育
進路想定	●大学入学共通テスト受験による国公立大学進学 ●総合型選抜受験等による各種大学進学 ●専門学校・各種学校進学	●大学、専門学校への進学	●大学（芸術系、教育学部等）への進学
教育内容	・国際理解や地域理解に関する学校設定教科開設 ・地域社会や自治体と連携したフィールドワーク中心の探究学習 ・興味関心等に応じた探究学習　等	・専門学習及び横断的な学習	・表現及び鑑賞の専門的な学習
選抜方法	・学力検査のほか、実技検査、面接、小論文、プレゼン等による選抜		

（４）学科・コースの詳細

①普通科・普通探究コース（仮称）

普通科・普通探究コース（仮称）では、生徒の進路希望に応じた上級学校への進学に対応した学びと、生徒個別の興味関心に応じて様々な方法で探究する学びの実現を目指す。そのための方策として、例えば、進路希望に基づく選択科目の類型によるクラス編制や習熟度に応じたクラス編制なども考えられる。

定員・クラス数は７クラス（252 名）を想定している。

②普通科・芸術探究コース（仮称）

普通科・芸術探究コース（仮称）では、現行の普通科芸術コースにおける教育内容を基礎に、芸術を通した社会貢献に取り組む探究学習や教科・科目横断的な学習などに取り組むことが考えられる。

定員・クラス数は１クラス（36 名、音楽・美術・書道の３系）を想定している。

③普通科・生活探究コース（仮称）

普通科・生活探究コース（仮称）では、現行の服飾デザインコースにおける教育内容に加え、生活課題の解決・改善に向けた探究学習を含め、生活全般をデザインすることに関する学習に取り組むことが考えられる。

定員・クラス数は１クラス（36 名）を想定している。

（５）併設中学校の新設検討について

併設中学校の設置については令和元年のアンケート調査で一定の設置ニーズがあったと説明されたが、令和２年３月の検討委員会答申では、「設置するかどうかも含め、小中学生をはじめとする市民のニーズを詳細に分析し、適切に判断されるようお願いする」と示された。

アンケート実施当時から現在までには、新型コロナウイルス感染拡大による社会情勢、経済状況の激変により、社会の価値観や教育ニーズが大きく変化したと予想される。

よって、併設中学校の新設については、新たな高等学校像が定まったうえで、設置のニーズを改めて調査し、熊本市教育委員会と必由館高校との検討組織を設置して検討することとする。

図表 18 併設中学校の設置検討について

目的・方法	・併設中学校の新設について市民の意見・ニーズを改めて調査し、教育委員会の検討材料とする ・新型コロナウイルス感染拡大による社会的影響、市の財政状況の変化等を踏まえ、改めて設置の必要性について慎重に検討する。
設置により想定される影響	・併設中学校の入学志願倍率が高い場合でも、高校段階からの入学希望者が減少する可能性がある。 ・施設設備に伴う予算措置（技術室、音楽室、普通教室、多目的室等）が必要。 ・中学生と高校生との施設共用や合同行事の実施、部活動の運営等について入念な検討と配慮が必要。 ・中学校からの入学者と高校からの入学者の教育課程の区別と中学校入学者のアドバンテージを明確にしておく必要がある。（先取り履修等） ・市内及び市外の中学校入学予定者から生徒を募集するため、特に近隣の中学校への進学者が減少する可能性がある。
必要な調査	・高校の学科・コース及び教育内容の特色が明らかになった段階で、入学対象となる小学生及びその保護者、小学校教員、市民に改めて設置の必要性等について調査する。 ・中高一貫教育を行う場合に求める教育内容や特色などについても意見を募る。 ・設置にあたっては施設設備の増設が必要であることを前提とし、技術家庭科室等の特別教室増設に係るコスト試算を行ったうえで広く市民のニーズを問う。

（６）募集定員や学科・コースの定期的な見直しについて

変化の激しい社会にあって、市民のニーズや高校卒業後の進路状況等を踏まえ、今回の改編の効果を定期的に検証し、募集定員や学科・コースの在り方についても必要に応じて見直す仕組みを構築する。

具体的には、例えば５年程度ごとに校内あるいは外部人材も交えた検討組織を設置し、翌年度以降の募集定員や学科・コースの改廃等に関する協議を行うことを想定している。

第５章　スケジュール（予定・最短）

【令和３年度（2021 年度）】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学科･コース検討			概要検討						詳細検討			
教育課程検討									概要検討			
選　抜　検　討									選抜方法等研究			
教　員　研　修	新教育課程実施に向けた研修（視察等含む）											

【令和４年度（2022 年度）】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学科･コース検討												
教育内容検討	詳細検討（教科・科目・単位数・授業方法ほか）											
選　抜　検　討	選抜問題・方法等研究				選抜問題作成							
生　徒　募　集					中学校等への説明				説明会実施			
教　員　研　修	改革実施に向けた研修（視察等含む）											

【令和５年度（2023 年度）】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学科･コース検討	中高一貫教育に関する調査等											
教育内容検討	シラバス作成・公表											
選　抜　検　討	参考問題公表				選抜問題・方法検討					選抜実施		
生　徒　募　集	中学校等への説明				説明会実施							
教　員　研　修	改革実施に向けた研修（視察等含む）											

【令和６年度（2024 年度）】

○新たな必由館高校スタート（最短）

○中高一貫教育（併設中学校設置）に関する調査、分析、研究
（中学校を設置する場合は施設整備（令和６～８年度））